

目次

目次	1
1.1 ご使用前の感謝状	3
1.2 本マニュアルの特色	4
1.3 安全上の情報	4
第2章 本マザーボードの紹介	5
2.1 マザーボードの外見は？	5
2.2 仕様	6
2.3 構成図	7
第3章 ハードウェア・インストレーション	8
3.1 クイック・インストレーションの手順	8
3.2 インストレーションのために知っておくべきこと	9
CPUをインストールする	9
CPUとシステムファンをインストールする	10
CPUファンをインストールする	11
メモリーモジュールをインストールする	12
デュアルチャネルのパフォーマンスを最大にする	13
IDEとフロッピーケーブルに接続する	14
前面パネルケーブルを接続する	15
ATX電源ケーブルを接続する	16
3.3 参考としての他のインストレーション	17
CPU電圧と周波数を設定する	17
シリアルATAを接続する	18
ハードディスクの設定を調整する	19
AGP 8X拡張スロットに接続する	21
IrDAに接続する	22
10/100/1000Mbps LANをサポート (i865Gm-IL用は1000Mbps)	23
USB2.0に接続する	24



スーパー5.1チャンネルオーディオ効果	25
前面オーディオを接続する	26
CD_INを接続する	27
AUX_INを接続する	28
Case Openを接続する	29
S/PDIF (Sony/Philips デジタルインターフェイス)を接続する	30
色分けされた後部パネル	31
LED表示	32
3.4 ジャンパー設定	33
第4章 特別な機能とユーティリティー	34
他の便利な機能	34
第5章 BIOSを設定する	35
紹介	35
Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方	36
BIOS設定への入り方	36
Windows環境でのBIOSアップグレード	37
Vivid BIOSテクノロジー	39
第6章 ドライバーをインストールする	40
ボーナスCDからのオートランメニュー	40
Intel Chipset Installationユーティリティーをインストールする	40
Intel Extreme Graphics 2ドライバーをインストールする	41
オーディオドライバーをインストールする	41
LANドライバーをインストールする	42
USB 2.0ドライバーをインストールする	42
第7章 トラブルシューティング	43
第8章 テクニカルサポート	44
モデル名とBIOSバージョン	45
マザーボードを登録する	45
テクニカルサポート	46



1.1 ご使用前の感謝状

まず初めに、AOpen製品をご購入くださり厚くお礼を申し上げます。本マザーボードは皆様のあらゆるニーズに合うよう、私たちの持つ優秀な設計能力を駆使し、品質のために尽力を傾け設計されました。

このマニュアルは本マザーボードのインストールの仕方を紹介しています。今後の参考として保管してください。印刷されたマニュアルをなくされた場合は、最新のファイルをダウンロードするために私共のウェブサイト<http://www.aopen.com>にアクセスしてください。

それでは、このユーザーにとって使い勝手のよいマニュアルとAOpenが提供するパワフルな機能のすべてを個人的に経験なさるようお招きいたします。

AdobeとAcrobatのロゴはAdobe Systems Incorporatedの登録商標です。

AMD, AthlonそしてDuronのロゴはAdvanced Micro Devices, Inc.の登録商標です。

Intel, Intel Celeron, Pentium II, IIIそしてPentium 4のロゴはIntel Corporationの登録商標です。

nVidiaのロゴはnVidia Corporationの登録商標です。

Microsoft, Windowsのロゴはアメリカ及び他の国々におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

本マニュアルで言及されている製品のタイトルや商標は解説上の便宜を目的としており、それぞれの企業によって所有されています。

使用上の標準やそれに関連する情報に関わる変更について提供できないことを遺憾に思います。

AOpenは本マニュアルの内容について変更や修正を加える権利を留保しています。商品に関わる点も含むいかなる誤記について、AOpenは保証や義務を負うものではありません。

本文書は会社を保護し全ての権利を留保するための著作権法に基付いています。

AOpenからの正式な文書での許可がない限り、どのような状況であれ、本冊子をいかなる種類に複製することも、データベースや媒体に取り込むことも許されていません。

1996-2004 Copyrights, AOpen Ltd. 版權所有。

1.2 本マニュアルの特色

本マザーボードの便利な情報や知っておくべき特定の状況を把握するために、以下のアイコンがしばしば出てきます：

重要

組み立ての過程で知っておくべき知識や役立つヒントを含んでいます。

警告 / 注意

このマークを見たら注意して下さい。組み立て中によく起きるミスや注意すべき点を強調しています。

ヒント

このヒントはインストールをスムーズに行うために役に立つ情報を教えてくれます。

1.3 安全上の情報

1

コンポーネントを扱う前に、リストストラップを着用しユニットの金属部分に触れてください。別の方法としては、アースされた物体に触れるか、その金属面に触れてください。

2

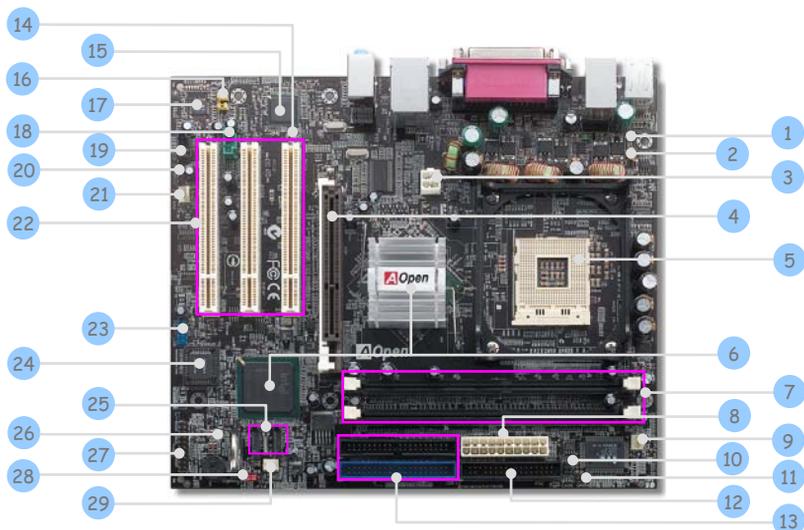
ジャンパー設定の前には常に電源を抜いてください。

3

マザーボード上のコンポーネントをインストールしたり外したりする前には、最初に電源を外し、マザーボードや他のコンポーネントにダメージを与えないようにして下さい。

第2章 本マザーボードの紹介

2.1 マザーボードの外見は？



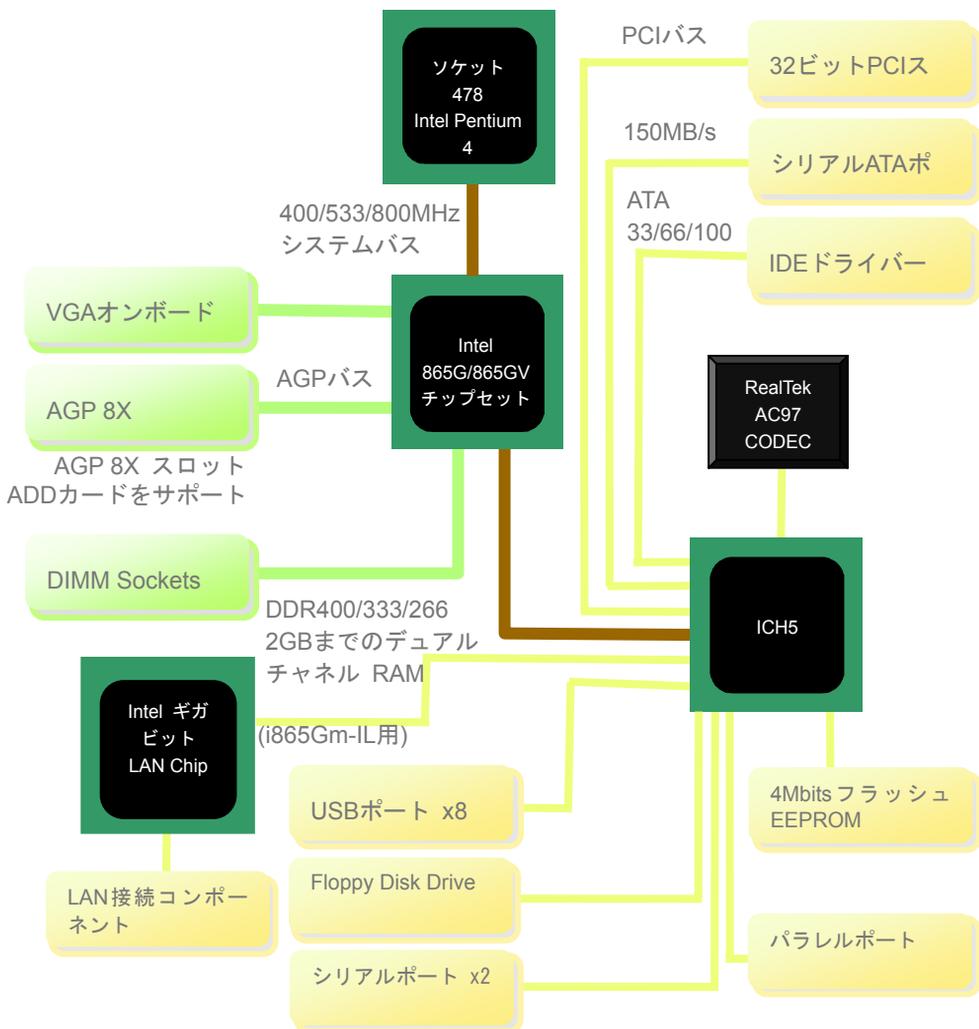
1. リセット可能フューズ	16. 前面オーディオコネクタ
2. JP28 PS2 キーボード/マウス起動ジャンパー	17. オンボード AC'97 CODEC
3. 4ピン12V ATX電源コネクタ	18. AUX_INコネクタ
4. AGP 8X 拡張スロット (i865Gm-I&i865Gm-IL)	19. CD_INコネクタ
5. Intel P4 NorthwoodとPrescott CPUをサポートする478ピンCPUソケット	20. S/PDIFコネクタ
6. Intel 865G/ICH5 チップセット (i865Gm-I&i865Gm-IL) Intel 865GV/ICH5 チップセット (i865Gvm-I)	21. SYSFAN1コネクタ
7. 184-pin DIMMs X 2	22. 32-bit PCI 拡張スロット X 3
8. ATX電源コネクタ	23. USB 2.0コネクタ
9. CPUFANコネクタ	24. DieHard BIOS Lite
10. IRDAコネクタ	25. シリアル ATA ポート X 2
11. Case Openコネクタ	26. スタンバイLED
12. FDDコネクタ	27. 前面パネルコネクタ
13. IDEコネクタ x 2	28. JP14 CMOS データクリアージャンパー
14. AGP保護LED	29. SYSFAN2コネクタ
15. Intel ギガビットLANチップ (i865Gm-IL) Intel 10/100Mbps LANチップ (i865Gm-I&i865Gvm-I)	

2.2 仕様

お手持ちのマザーボードの主要な機能です。

モデル	i865Gm-I/i865Gm-IL	i865Gm-I
CPU	Intel Pentium 4 NorthwoodとPrescott CPU Socket 478 400/533/800MHz	Intel Pentium 4 CPU Northwoodと Prescott CPU Socket 478 400/533/800MHz
チップセット	Intel 865G/ICH5	Intel 865GV/ICH5
メインメモリー	デュアルチャネルモードDDR 266/333/400MHz DDR DIMM x 2 DIMMタイプ : 64/128/256/512MB & 1GB 最大メモリー : 2GB	デュアルチャネルモードDDR 266/333/400MHz DDR DIMM x 2 DIMMタイプ : 64/128/256/512MB & 1GB 最大メモリー : 2GB
グラフィックス	チップセットに一体型のVGAエンジン 8X AGPスロット, ADDカードをサポート	チップセットに一体型のVGAエンジン
IDE	一体型のATA100とシリアルATAコントローラー 最大ディスク : 144,000,000GB [48 bits LBA Spec.による]	一体型のATA100とシリアルATAコントローラー 最大ディスク : 144,000,000GB [48 bits LBA Spec.による]
LAN	IntelギガビットLANコントローラー (i865Gm-IL) Intel LAN 10/100Mbpsコントローラー (i865Gm-I)	Intel LAN 10/100Mbpsコントローラー
サウンド	Realtek AC'97 CODECオンボード, 5.1チャネルをサポート	Realtek AC'97 CODECオンボード, 5.1チャネルをサポート
USB	チップセットに一体型, USB 2.0 x 8	チップセットに一体型, USB 2.0 x 8
スロット	AGP x 1 PCI x 3	PCI x 3
後部パネル I/O	PS/2キーボード x 1, PS/2マウス x 1 USBポート x 6, LANポート x 1, VGAポート x 1 COMポート x 1, プリンターポート x 1 スピーカー出力 x 1, ライン入力 x 1 マイク入力 x 1	PS/2キーボード x 1, PS/2マウス x 1 USBポート x 6, LANポート x 1, VGAポート x 1 COMポート x 1, プリンターポート x 1 スピーカー出力 x 1, ライン入力 x 1 マイク入力 x 1
オンボードコネクター	前面パネル x 1 前面オーディオ x 1 CPUファン x 1, システムファン x 1, ケースファン x 1 Case Openコネクター x 1 CD_IN x 1, AUX_IN x 1 IrDA x 1, S/PDIF x 1 USBポート x 2	前面パネル x 1 前面オーディオ x 1 CPUファン x 1, システムファン x 1, ケースファン x 1 Case Openコネクター x 1 CD_IN x 1, AUX_IN x 1 IrDA x 1, S/PDIF x 1 USBポート x 2
BIOS	Award PnP 4MbフラッシュROM BIOS	Award PnP 4MbフラッシュROM BIOS
ボードサイズ	244 mm x 210 mm	244 mm x 210 mm

2.3 構成図



第3章 ハードウェア・インストール

3.1 クイック・インストールの手順



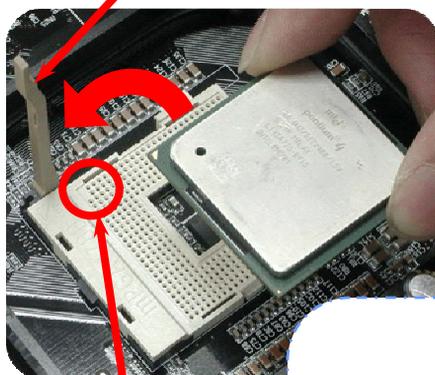
3.2 インストールのために知っておくべきこと

CPUをインストールする

このソケットはIntelが開発した最新のCPUパッケージであるFC-PGA2パッケージCPUをサポートしています。他の形状のCPUパッケージは納まりません。

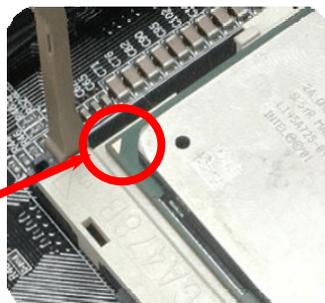
1. CPUソケットレバーを90度の角度まで引き上げる。
2. ソケットのピン1を確かめ、CPU上部にある金色の矢印を探す。ピン1と金色の矢印を合わせる。次にCPUをソケットに差し込む。
3. CPUソケットプレートとレバーを押し込み、CPUのインストールは完了。

CPUソケットレバ



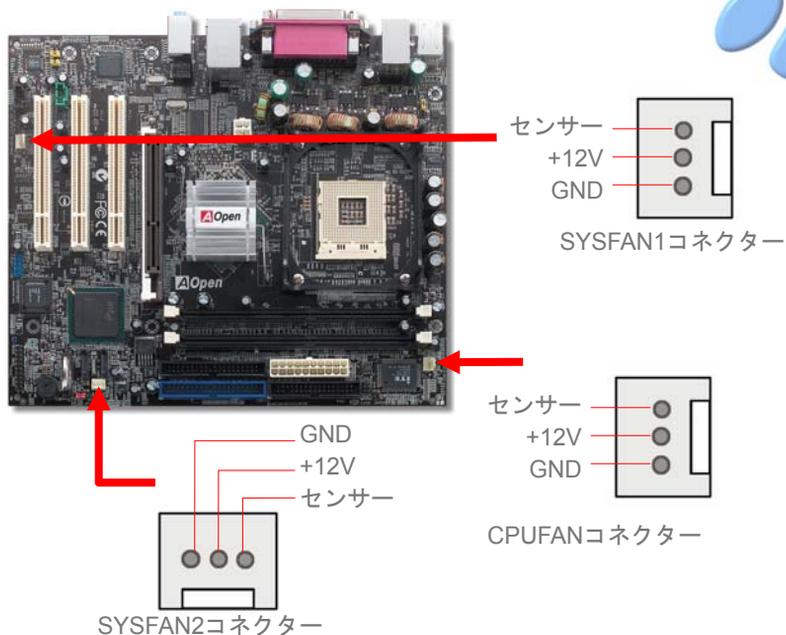
ソケットピン

金色の矢印



CPUとシステムファンをインストールする

CPUファンケーブルを3ピンCPUFANコネクタに接続します。もしケースファンがあれば、SYSFAN1かSYSFAN2コネクタに接続できます。

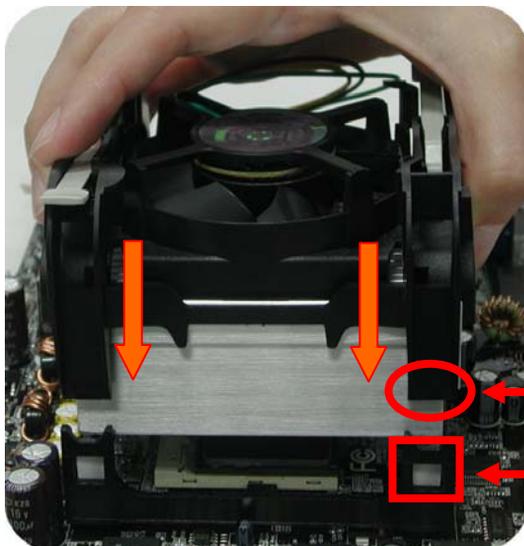


重要： CPUファンの中にはセンサーピンのないものがあるので、その場合はファンのモニターをサポートできません。

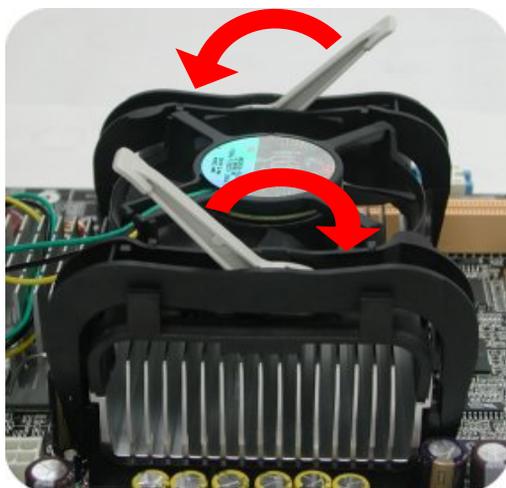


CPUファンをインストールする

1. CPUファンを4つの穴に正確に並べ、4つのクリップでモジュールに優しく押し込んでください。2つのレバーが反対方向を向いていることを確かめてください。
2. クリップを一つずつ押し込んでください。クリップがしっかりと穴に固定されていることを確認してください。



3. CPUファンを固定するために2つのレバーを反対方向に引き下げてください。

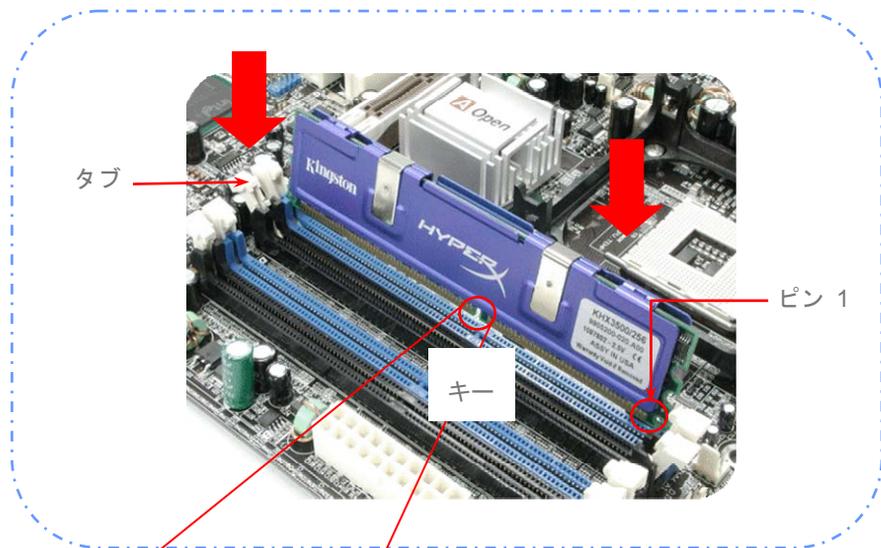


重要：上の写真のものは購入されたものと形状が異なるかもしれません。



メモリーモジュールをインストールする

DIMMスロットは分かりやすいように黒色に設計されています。モジュールを両手でまっすぐに DIMMスロットに挿入し、DIMMモジュールがしっかりと固定されるまで押し込んでください。



重要： DIMMスロットのタブはDIMMスロットの底部に接触したときに、DIMMを固定するために持ち上がります。

デュアルチャネルのパフォーマンスを最大にする

デュアルチャネルの最高のパフォーマンスを得るために、DIMMの構成は以下の条件を満たしていなければなりません。

それぞれのチャンネルに適合するDIMM構成

- 同一密度(128MB~1GB)
- 同一DRAMバス幅 (x8 または x16)
- 片面、両面のどちらか

重要：異なるチップや密度のメモリーモジュールを使用するとシステム不安定の原因になります。

メモリーモジュールを挿入するために以下の相互参照表に従ってください。

DIMM A1	DIMM A2	DIMM B1	DIMM B2	デュアルチャンネル
V		V		有効
	V		V	有効
V	V	V	V	有効

デュアルチャネルモードが上手く有効になると、POST画面の間に、“Dual Channel Mode Enabled”が画面に表示されます。

```
Phoenix - AwardBIOS v6.00PG, An Energy Star Ally
Copyright (C) 2003, Phoenix Technologies, LTD
Feb.02.2004 AOpen Inc.

Main Processor : Intel Pentium(R) 4 2.80GHz(200x14.0)
Memory Testing : 1048576K OK
CPU Brand Name : Intel(R) Pentium(R) 4 CPU 2.80GHz

Hyper-Threading Technology Enabled
Dual Channel Mode Enabled
CPU          200MHz / 200MHz          Default / Setting
DRAM         400MHz / 400MHz          AUTO / AUTO
AGP          66.67MHz / 66.67MHz          1.50 V / 1.50 V
PCI          33.33MHz / 33.33MHz          3.30 V / 3.30 V
IDE Channel 0 Master : WDC WD300AB-00CDB0 22.04A22
IDE Channel 0 Slave : None
IDE Channel 1 Master : None
IDE Channel 1 Slave : None
```



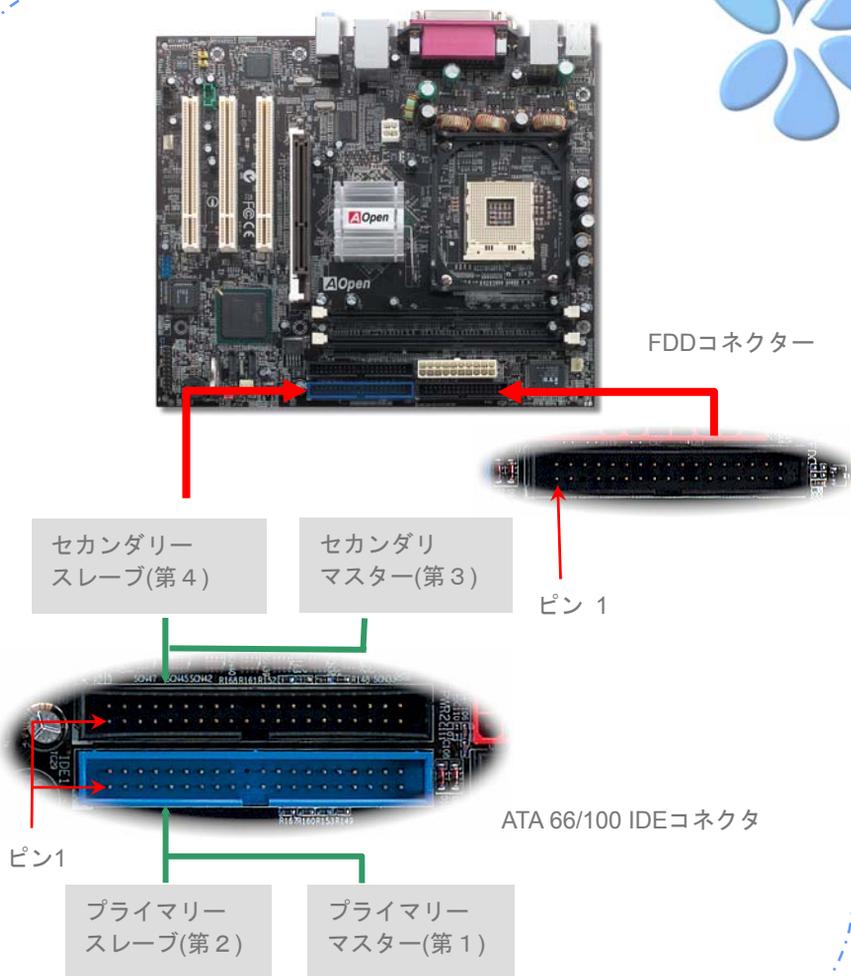
AOpen

<http://www.aopen.com.tw>

Press DEL to enter SETUP
02/02/2004-Springdale-G-6A79AAB9C-00

IDEとフロッピーケーブルを接続する

34ピンのフロッピーケーブルと40ピンか80ワイヤーIDEケーブルをフロッピーコネクタとIDEコネクタに接続します。ピン1の向きに注意してください。向きを間違えるとシステム損傷の原因になります。



前面パネルケーブルを接続する

電源LED、スピーカー、リセットスイッチコネクタを対応するピンに取り付けます。BIOS設定の“サスペンドモード”の項目を有効にすると、システムがサスペンドモードになっている間、ACPI と Power LEDが点滅します。

ATXケースの電源スイッチケーブルを確認してください。ケースの前面パネルの2ピンのメスのコネクタです。このコネクタをSPWRと記されたソフトパワースイッチコネクタに接続します

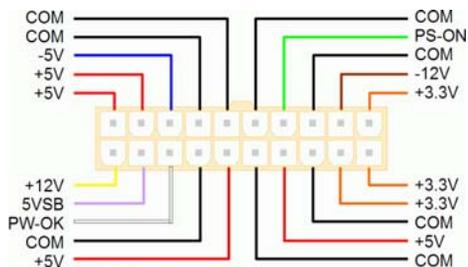
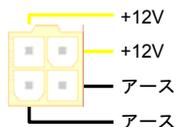
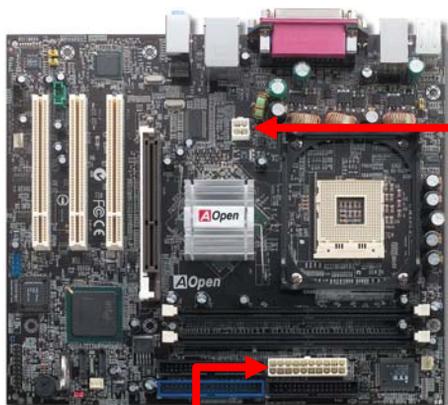


1		
NC		Power Switch
NC		GND
+5V		Power LED-
HDD LED		GND
HDD LED		Power LED+
+5V		NC
+5V		GND
GND		GND
NC		RESET
SPEAKER		GND

Front Panel Connector

ATX電源ケーブルを接続する

本マザーボードには下に示されているように、20ピンのATX 電源コネクタと4ピンの12V ATX電源コネクタがあります。正しい向きで差し込んでください。20ピンコネクタを差し込む前に4ピンコネクタを差し込んでおかれることを強くお勧めします。



3.3 参考としての他のインストレーション

CPU電圧と周波数を設定する

CPUのコア電圧を設定する

本マザーボードは、電源投入されている間CPU電圧を自動的に検知するVoltage ID (VID)機能をサポートしています。

CPUの周波数を設定する

本マザーボードはCPUのジャンパー不要設計のため、BIOS 中の1MHz Stepping CPUオーバークロックを通してCPU周波数を設定できます。 **CPUコア周波数 = CPU FSBクロック x CPU 比率**。しかし、現在販売されている全てのCPUは "Fixed Multiplier (固定乗数)" に属しています。これはユーザーがCPU 比率を調整することはできず、オーバークロックのためにはCPU FSBクロックの変更しかできないという意味です。

BIOS設定 > 周波数 / 電圧制御 > CPUスピード設定

(ユーザーは自分のリスクでオーバークロックを行ってください!!!)

CPUモデル名	CPUコア周波数	システムバス	L2キャッシュ	比率
Pentium 4 2.4AG	2400MHz	533MHz	1MB	18x
Pentium 4 2.8AG	2800MHz	533MHz	1MB	21x
Pentium 4 2.8BG	2800MHz	533MHz	512KB	21x
Pentium 4 2.8CG	2800MHz	800MHz	512KB	14x
Pentium 4 2.8EG	2800MHz	800MHz	1MB	14x
Pentium 4 3.0CG	3000MHz	800MHz	512KB	15x
Pentium 4 3.0EG	3000MHz	800MHz	1MB	15x
Pentium 4 3.06BG	3066MHz	533MHz	512KB	23x
Pentium 4 3.2CG	3200MHz	800MHz	512KB	16x
Pentium 4 3.2EG	3200MHz	800MHz	1MB	16x
Pentium 4 3.4CG	3400MHz	800MHz	512KB	17x
Pentium 4 3.4EG	3400MHz	800MHz	1MB	17x
Celeron 325	2533MHz	533MHz	256KB	19x
Celeron 330	2666MHz	533MHz	256KB	20x
Celeron 335	2800MHz	533MHz	256KB	21x
Celeron 340	2933MHz	533MHz	256KB	22x
Celeron 345	3066MHz	533MHz	256KB	23x

重要：CPUのスピードは急速に変化するため、このインストレーションガイドを手にする時点ではより高速のCPUがあるかもしれません。この表は参考のためのものです。詳細な情報については販売店と連絡を取ってください。



重要： Intel 865G/865GV チップセットは NorthwoodとPrescott プロセッサをサポートしていません。NorthwoodとPrescott プロセッサは自動的にクロック率を検知しません。BIOSマニュアルのクロック率を調整できないかもしれません。

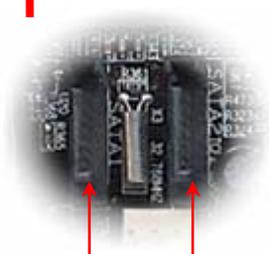
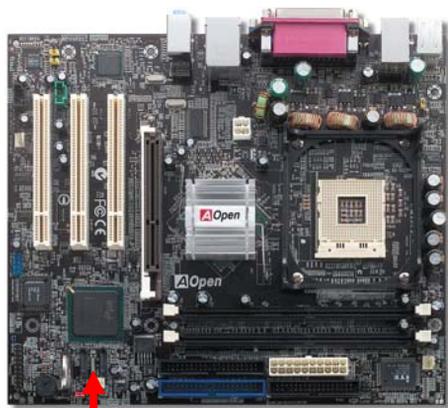


警告： Intel 865G/865GVチップセットは最大800MHz (200MHz*4) のシステムバスと66MHz AGPクロックをサポートします。クロック設定を高くするとシステムに深刻な損傷を起こすかもしれません。

CPU比率	8x, 10x... 24x, 25x, 26x, 27x, 28x
CPU FSB (手動での調整)	FSB = 100MHz-248MHz by 1MHz Stepping CPUオーバークロック

シリアルATAを接続する

シリアルATAディスクを接続するために、7ピンのシリアルATAケーブルが必要です。シリアルATAケーブルの両端をマザーボード上のシリアルATAヘッダーとディスクに接続します。他の従来のディスクのように、電源ケーブルも接続します。ジャンパー不要装置であることに注意してください。マスターがスレーブディスクを定義するためにジャンパーを設定する必要はありません。シリアルATAハードディスクをシリアルATAポートにインストールするときは、Port0（SATA1）に接続した側が自動的に最初にブートするデバイスとして設定されます。**ホットプラグ機能をサポートしていないことに注意してください。**



SATA1 SATA2



ハードディスクの設定を調整する

2セットのオリジナルの平行IDEを除いて、本マザーボードは最新のシリアルATAハードディスクをサポートしています。インストールをした後で、インストールしたばかりの最新のシリアルATAハードディスクがOS上に見つからないなら、BIOS設定に問題があるかもしれません。正しく機能するようにBIOS設定を調整できます。

ハードディスクを正しくインストールした後で、調整用のBIOS設定画面に進んでください。好みのモードを選択するために“**Integrated Peripherals → OnChip IDE Device → On-Chip Serial ATA**”の順に押してください。オリジナル設定の変更を希望されないのであれば、デフォルトはAuto（自動）になっています。

The screenshot shows the Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility interface. The main menu is on the left, and the 'Integrated Peripherals' menu is selected. The 'OnChip IDE Device' menu is open, showing options like 'OnChip IDE Device', 'Onboard Device', and 'SuperIO Device'. The 'OnChip IDE Device' option is selected, and the 'On-Chip Serial ATA Setting' menu is open, showing options like 'SATA Mode', 'On-Chip Serial ATA', 'Serial ATA Port0 Mode', and 'Serial ATA Port1 Mode'. The 'On-Chip Serial ATA' option is selected, and the 'SATA Mode' is set to 'Auto'.

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility	
▶ Standard CMOS Features	Load Setup Defaults
▶ Advanced BIOS Features	Load Turbo Defaults
▶ Advanced Chipset Features	Set Password
▶ Integrated Peripherals	Save & Exit Setup
▶ Power	
▶ PnP/PS/2	
▶ Silent	
▶ Frequency	

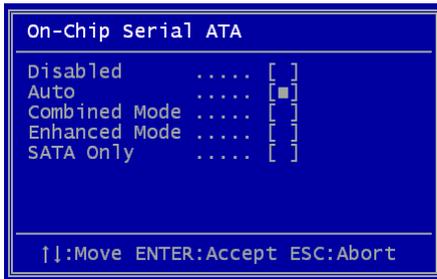
Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility	
Integrated Peripherals	
▶ OnChip IDE Device	Press Enter
▶ Onboard Device	Press Enter
▶ SuperIO Device	Press Enter

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility	
OnChip IDE Device	
IDE HDD Block Mode	Enabled
On-Chip Primary PCI IDE	Enabled
IDE Primary Master PIO	Auto
IDE Primary Slave PIO	Auto
IDE Primary Master UDMA	Auto
IDE Primary Slave UDMA	Auto
On-Chip Secondary PCI IDE	Enabled
IDE Secondary Master PIO	Auto
IDE Secondary Slave PIO	Auto
IDE Secondary Master UDMA	Auto
IDE Secondary Slave UDMA	Auto
*** On-Chip Serial ATA Setting ***	
x SATA Mode	IDE
x On-Chip Serial ATA	Auto
x Serial ATA Port0 Mode	SATA0 master
Serial ATA Port1 Mode	SATA1 master

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility	
OnChip IDE Device	
Item Help	
Menu Level	▶▶
[Disabled]: Disabled SATA Controller.	
[Auto]: Auto arrange by BIOS.	
[Combined Mode]: PATA and SATA are combined, Max.of 2 IDE drives in each channel.	
[Enhanced Mode]: Enable both SATA and PATA. Max.of 6 IDE drives are supported.	
[SATA Only]: SATA is operating in legacy mode.	

↑↓←→:Move F2:Item Help

↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F2:Item Help F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:Turbo Defaults



デフォルト設定の変更を望まれるなら、選択リストのためにEnterを押します：

Disabled (無効)：従来のIDEハードディスクだけがシステムにインストールされているならこの項目を選択できます。この項目を無効にすると、POSTの最中にシリアルATAハードディスクの検知をキャンセルします。理論的にはブートの時間がわずかに早まりますが、後になってシリアルATAハードディスクを使用する

ときにはこの設定を再調整することを忘れないで下さい。

Auto (自動)：これが本マザーボードの出荷時のデフォルト設定です。基本的には、システムが正しく機能していれば、変更する必要はありません。システムは自動的にIDE1の最初のハードディスクを最初にブートするデバイスとして認識します。

重要：6つのハードディスクが全てインストールされた状態でWindows98/MEを使用するときは、Autoモードが正しく機能しないことをご理解ください。Windows98/MEは全てのハードディスクを認識するEnhanced Mode (拡張モード) を起動させることができないからです。

Combined Mode (統合モード)：従来のIDEハードディスクとシリアルATAハードディスクを同時にインストールするには、このモードを選択します。このモードでは、最初にブートするデバイスとしてIDEハードディスクかシリアルATAハードディスクをランダムに選択できます。しかしマッピングでは、IDEがATAと共に存在することに注意してください。つまりシリアルチャネルの一つが占有され、シリアルチャネルが一つしか残らなくなるという意味です。

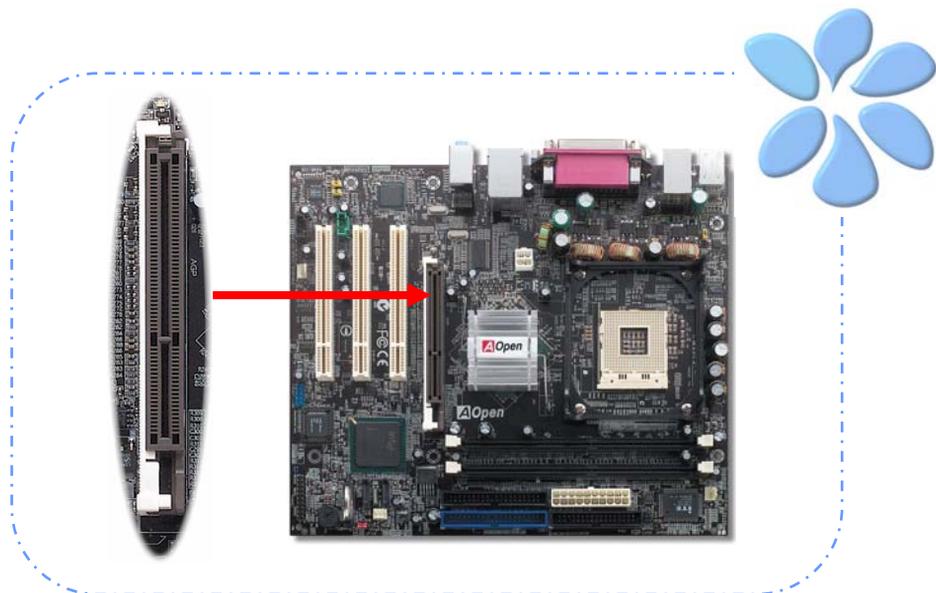
Enhanced Mode (拡張モード)：最新のOS (例：Windows XP, Windows.NET Server) をお使いであれば、Enhanced Modeを選択されるよう強くお勧めします。このモードではシステムは6つのデバイス全て (従来型IDE x 2, シリアルATA x 4) をしっかり認識し、正しく機能します。しかし、このモードでは従来型IDEが最初にブートするデバイスに設定されることに注意してください。

重要：ラボでの実用実験によれば、Windows2000のOSのもとでこのモードが設定されているときには、目立った問題やミスはありませんが、Intelは推奨していません。

SATA Only：シリアルATAハードディスクをインストールするときのみ、このモードを選択できます。このモードはブートの順序をPort0 (SerialATA1) あるいはPort1 (SerialATA2) に選択することを可能にしています。

AGP 8X拡張スロットに接続する

i865Gm-I / i865Gm-ILはAGP 8Xスロットを提供しています。AGP 8Xは高いパフォーマンスの3Dグラフィックスを対象にしたバスインターフェイスです。従来は、AGPが4X AGP用の66MHzクロックの最盛期と後退期の両方で使用され、データ転送率は66MHz x 4bytes x 4 = 1056MB/s に達しました。今ではAGPスロットはAGP 8Xモードに移行し、66MHz x 4bytes x 8 = 2.1GB/sにアップグレードされました。AGPスロットは、AGPあるいはADD (AGP デジタルディスプレイ) などの、どのカードが挿入されているかにより、自動的にAGPや多重化Intel DVO出力を認識します。このスロットに装備されているADDカードと合わせて、多重化Intel DVO出力はデジタルディスプレイやTV-OUT機能のために高速なデジタル接続を提供します。



警告: SATA デバイスに接続するときは、AGP/PCI電圧/クロックを調整しないよう強くお勧めします。AGP/PCIのための電圧/クロックが調整されると、SATAクロックが100MHzを維持できないからです。そのためにシステムが不安定になります。



警告: 本マザーボードの Intel 865G / 865GV チップセットがサポートしていないため、3.3V AGPをインストールしないよう強く勧められています。

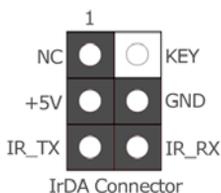
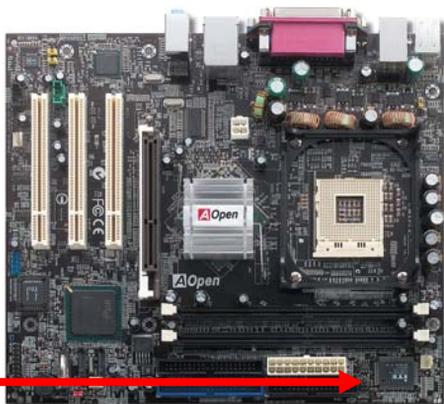
IrDAを接続する

IrDAコネクタはワイヤレス赤外線モジュールをサポートするように設定できます。このモジュールとLaplink、Windows Direct Cable Connectionのようなアプリケーションを使って、ユーザーはファイルをラップトップ、ノートパソコン、PDA装置やプリンターに転送できます。このコネクタはHPSIR (115.2Kbps, 2 meters)とASK-IR (56Kbps)の両方をサポートしています。

赤外線モジュールをIrDAコネクタにインストールし、BIOS設定のUARTモードから赤外線機能を有効にすると、この機能を使用できます。IrDAモジュールを差し込むときは、正しい向きに差し込んでいることを確認して下さい。



ピン1



10/100/1000Mbps LANをサポート (i865Gm-IL用は1000Mbps)

ボード上のギガビットの強度のLANコントローラーについては、本マザーボードはオフィスと家庭の用途のために10/100/1000Mbps (i865Gm-Iとi865Gvm-I用は10/100Mbps) Ethernetを提供しています。Ethernet RJ45コネクタはUSBコネクタの上部に位置しています。右側のLEDはリンクモードを示していて、ネットワークにリンクされていると黄色に点灯します。左側のLEDは転送モードを示していて、データが100Mbps (10Mbpsだと点灯しない)で転送されていると緑に点灯します。しかしギガビットモードで転送されているとオレンジに点灯します。この機能を有効、無効にするにはBIOS を通して調整してください。LANの起動機能を有効にするには、BIOSの“Power Management Setup”セクションで“Wake on PCI Card”を有効にセットしなければなりません。



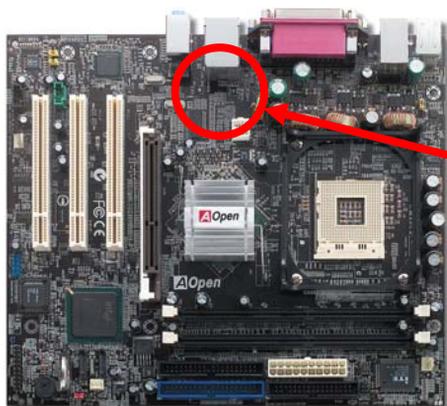
速度 LED (左)

緑色 100Mbps

オレンジ色 ギガビット

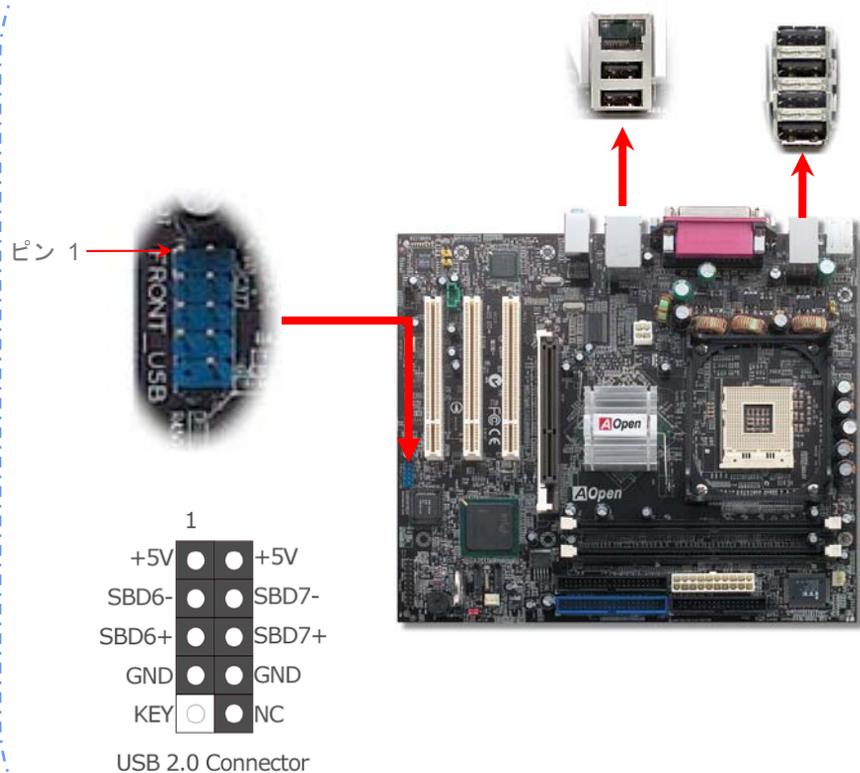
ACT LED (右)

黄色



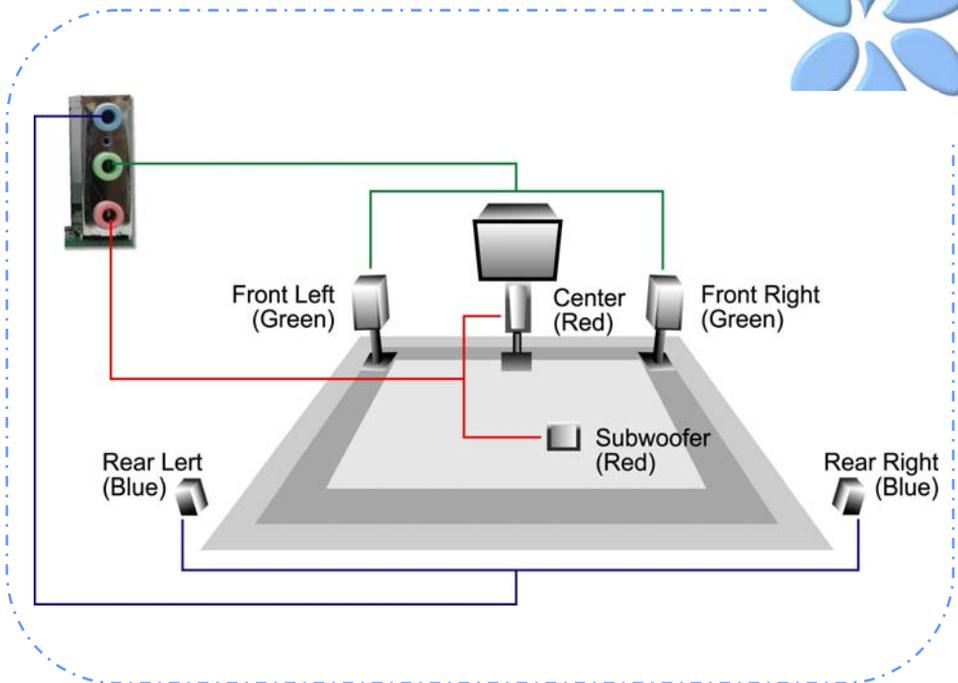
USB2.0を接続する

本マザーボードはマウス、キーボード、モデム、プリンターなどのUSB装置に接続できる
よう8つのUSB 2.0ポートを備えています。後部パネルにはポートが4つあります。前面USB
コネクタをUSBモジュールやケースの前面パネルに接続するために適切なケーブルを使
えます。



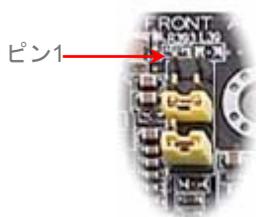
スーパー5.1 チャンネルオーディオ効果

本マザーボードにはRealtek AC'97 CODEC (ALC650)が付いており、音響効果において高品質な最新の5.1チャンネルをサポートしています。これによって全く新しいオーディオ体験ができるでしょう。ALC650の革新的な設計のおかげで外部モジュールに接続することなく、サラウンドオーディオ出力のために標準的なラインジャックを使用できます。この機能を活用するためには、ボーナスパックCDの中のオーディオドライバーと5.1チャンネルをサポートするオーディオアプリケーションをインストールする必要があります。下の図は5.1チャンネルサウンドトラックの全てのスピーカーの標準的な位置を示しています。前面スピーカーのプラグを緑色の“Speaker out (スピーカー出力)”ポートに、後部のスピーカープラグを青色の“Line in(ライン入力)”ポートに、中央とサブウーハースピーカーの両方を赤色の“MIC in (マイク入力)”ポートに接続してください。



前面オーディオを接続する

もしケースの前面パネルにオーディオポートが付いていれば、このコネクタを通してオンボードオーディオを前面パネルに接続できます。ところで、ケーブルを接続する前にジャンパーキャップを前面オーディオコネクタから取り外してください。もしケースの前面パネルにオーディオポートがなければ、この黄色色のジャンパーキャップは取り外さないでください。



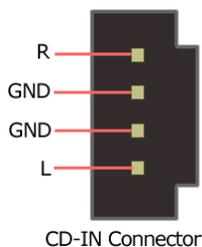
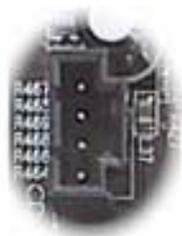
	1		
AUD_MIC	● ●	AUD_GND	
AUD_MIC_BIAS	● ●	AUD_VCC	
AUD_FPOUT_R	● ●	AUD_RET_R	
NC	● ○	KEY	
AUD_FPOUT_L	● ●	AUD_RET_L	

Front Audio Connector



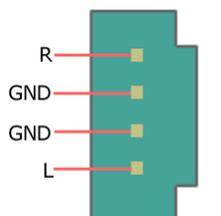
CD_INを接続する

このコネクタはオンボードサウンドのために、CDROMやDVDドライブからCDオーディオケーブルに接続するよう設計されています。

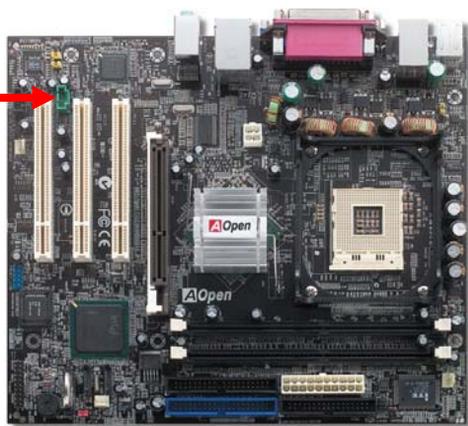


AUX_INを接続する

このコネクタはMPEGオーディオカードからオンボードサウンドにMPEGオーディオケーブルを接続するために使用されます。

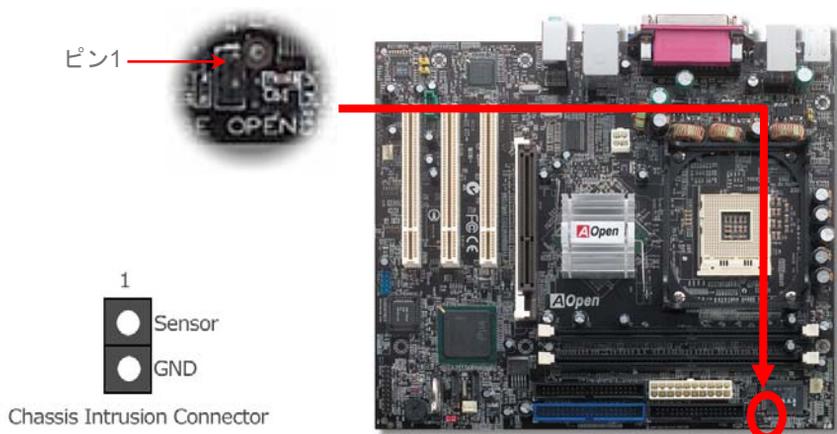


AUX-IN Connector



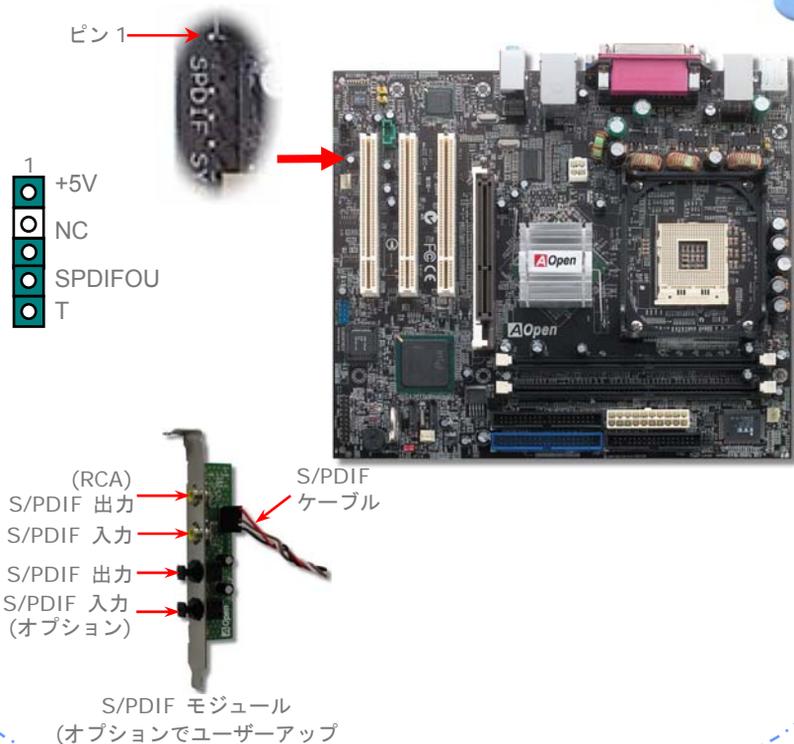
Case Openを接続する

“CASE OPEN”ヘッダーはケースへの侵入監視機能を提供しています。この機能を実行させるには、システムBIOSの中でそれを有効にし、このヘッダーをケースの中のセンサーに接続しなければなりません。センサーが光や、ケースが開けられて誘発させられると、システムはブープ音で知らせます。この便利な機能は先進のケースのみに適用できることをお知らせします。余分なセンサーを購入し、ケースに接続し、この機能を十分にお使いください。



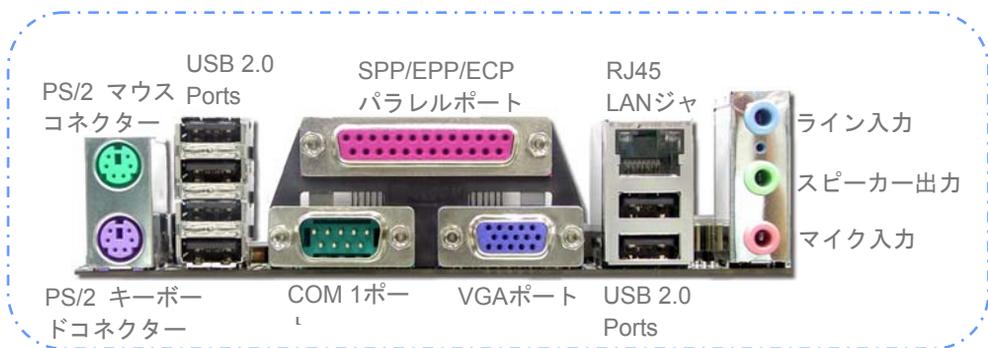
S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインターフェイス)を接続する

S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインターフェイス)は最新のオーディオ転送ファイルフォーマットです。これは光ケーブルを通して優れたオーディオ品質を提供し、アナログオーディオの代わりにデジタルオーディオを楽しんで頂くことを可能にしています。特定のオーディオケーブルを通して、S/PDIFコネクタをS/PDIFオーディオモジュールの他方の端に接続できます。これがS/PDIFデジタル出力を担います。通常は以下に示されるように2つのS/PDIF出力があり、一つはRCAコネクタ用、つまり消費されるオーディオ製品に使用される最も一般的なもの、そして他方はより良いオーディオ品質のための光学コネクタ用です。出力のように、RCA あるいは光学オーディオ製品をモジュールのコネクタにインポートしたり、コンピューターから出る音声や音楽をとるために接続することもできます。しかし、この機能を最大限に活用するために、S/PDIFデジタル入力/出力に接続できるよう、S/PDIFデジタル入力/出力を備えた、S/PDIFをサポートするスピーカー/アンプ/デコーダーが必要です。



色分けされた後部パネル

オンボードのI/OデバイスにはPS/2キーボード、PS/2マウス、RJ-45 LANコネクタ、COM1、VGAポート、プリンター、USB、AC'97サウンドとゲームポートがあります。以下の写真はケースの後部パネルから撮ったものです



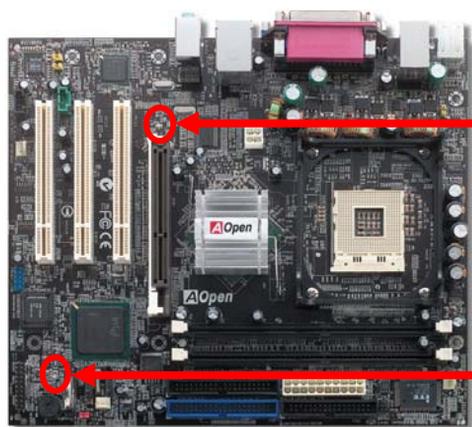
<u>PS/2 キーボード:</u>	PS/2プラグを使用する標準的なキーボード
<u>PS/2 マウス:</u>	PS/2プラグを使用するPCマウス
<u>USB ポート:</u>	USBデバイスとの接続可能
<u>パラレルポート:</u>	SPP/ECP/EPPプリンターと接続
<u>COM1 ポート:</u>	ポインティングデバイス、モデム、他のシリアルデバイスと接続
<u>RJ-45 LANポート:</u>	家庭用、事務所用Ethernetと接続
<u>VGA コネクタ:</u>	PCモニターと接続
<u>スピーカー出力:</u>	外部スピーカー、イヤフォン、アンプ用
<u>ライン入力:</u>	CDやテープなどのシグナルソースから
<u>マイク入力:</u>	マイク用

LED表示

LED表示にはスタンバイLEDとAGP LEDが含まれており、AOpenは使い勝手のよいシステム情報を提供することを目標に設計しました。

STBY LED(スタンバイLED)は電源がマザーボードに提供されているときに点灯します。システム電源の状態を確認するために便利な表示です。確認できる状態としては、電源のオン・オフ、スタンバイモードやサスペンドからRAMモードの間のRAM電源状態などがあります。

AGP LEDはAGPカードの過剰電圧によるダメージからマザーボードを保護することが目的です。AGP Protection Technology (AGP保護テクノロジー) が導入されていれば、本マザーボードは自動的にAGPカードの電圧を検知し、チップセットが焼きついてしまわないよう保護します。3.3VのAGPカードをインストールしていると、Intel 865G/865GVチップセットにサポートされませんので、マザーボードのAGP LEDは点灯して過剰電圧によるダメージの可能性を警告することに注意してください。



AGP LED



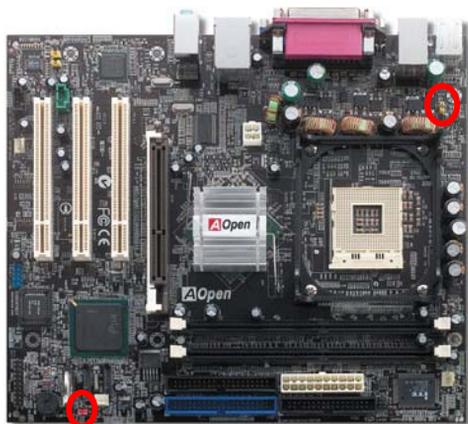
スタンバイ LED



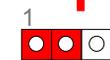
3.4 ジャンパー設定

JP28 キーボード / マウス起動ジャンパー

本マザーボードはPS2キーボード / マウス起動ジャンパー機能を提供しています。



JP14 クリアー-CMOSジャンパー



通常
(デフォルト)



クリアー
CMOS



無効

(デフォルト)



有効

JP28 PS2 KB/マウス
起動ジャンパー

JP14 クリアー-CMOS
データ

システムのデフォルト設定を回復することによってCMOSをクリアーできます。CMOSをクリアーするために、以下の手順に従ってください。

1. システムの電源を切り、AC電源を抜く。
2. PWR2コネクターからATX電源ケーブルを外す。
3. JP14を確認し、ピン2-3を2, 3秒間短絡する。
4. ピンの1と2を短絡することで、JP14を通常の設定に戻す。

第4章 特別な機能とユーティリティー

他の便利な機能

R&Dチームの優れた設計能力により、AOpenは下記のような弊社製品に付属する多様で強力、そして手ごろな機能に自信をしております。そうした機能についてさらに学ばれるよう、私たちのテクニカルウェブサイトを訪問なさってください。

<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside>



Gigabit LAN



1MHz Stepping CPU



Vivid BIOS



DieHard BIOS Lite



Hyper-Threading



EzWin Flash

DDR400

FSB800



Dual Channel



Serial ATA

第5章 BIOSを設定する

紹介

システムのパラメーターはBIOS設定メニューに入って調整できます。このメニューではシステムパラメーターを設定したり、128バイトのCMOSエリア（通常はRTCチップかメインチップセットの中）に構成を保存できます。

マザーボードのFlash ROMがインストールされているPhoenix-Award BIOS™は業界標準BIOSのカスタムバージョンです。BIOSはハードディスクドライブ、シリアル、パラレルポートなどの標準的なデバイスのために重要な低層レベルでのサポートを提供しています。

AOpenのR&Dエンジニアリングチームは本マザーボードのほとんどのBIOS設定を最適化しました。しかし、BIOSのデフォルト設定のあるものはチップセットで制御されているため微調整できませんでした。そのため、この章では幾つかの設定を調整する手助けをすることを意図しています。

BIOS設定メニューに入るため、画面にPOST（パワーオン・セルフテスト）が表示されるとキーを押してください。

 **重要：** BIOSコードはマザーボード上で最も頻繁に変更される部分なので、このマニュアルに含まれるBIOS情報はお手元のマザーボードに付属するBIOSバージョンとは異なる場合があります。

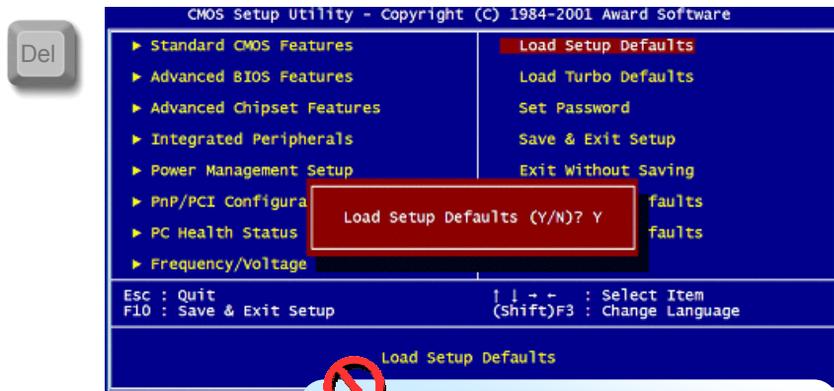
Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方

一般的に、選択したい項目は矢印キーを使って強調し、選択のためには<Enter>キーを押します。値を変更するには<Page Up>と<Page Down>キーを使います。Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムを終了するには<Esc>キーを押します。以下の表はPhoenix-Award™ BIOS設定プログラムの中でキーボードの使い方の詳細を示しています。別の方法としては、詳細説明や、さらに協力的な機能とBIOSの発展的な設定を入手するためにAOpenの最新版のWinBIOSユーティリティをインストールされるよう強くお勧めします。

キー	説明
Page Up か +	設定を次の値に変更するか、値を増やす。
Page Down か -	設定を前の値に変更するか、値を減らす。
Enter	項目を選択する。
Esc	メインメニュー：変更を保存せずに終了。 サブメニュー：現在のメニューからメインメニューへ戻る。
↑	前の項目を強調する。
↓	次の項目を強調する。
←	バーをメニューの左端に移動させる。
→	バーをメニューの右端に移動させる。
F6	CMOSからセットアップデフォルト設定値をロードする。
F7	CMOSからターボ設定値をロードする。
F10	変更された設定を保存し、セットアッププログラムを終了する。

BIOS設定への入り方

ジャンパー設定を終え、ケーブルを接続してから、電源を投入しBIOS設定に入ることができます。POST（パワーオン・セルフテスト）の間にキーを押し、推奨最適パフォーマンスのために"Load Setup Defaults"を選択してください。



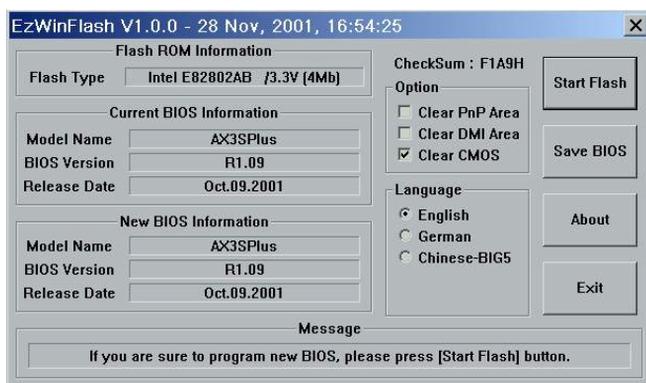
警告： ご自分のシステムコンポーネント (CPU, SDRAM, HDDなど) がターボ設定に十分であることが確かでない限り、“Load Turbo Defaults” を使用しないでください。

Windows環境でのBIOSアップグレード



AOpenの優れたR&D能力により、全く新しいBIOSフラッシュウィザード - EzWinFlash - をお届けします。ユーザーの便宜を視野に入れ、EzWinFlashはBIOSバイナリコードとフラッシュモジュールの両方を統合しました。そのためユーザーが行うことはウェブからダウンロードしたユーティリティををクリックするだけです。後は自動的にフラッシュのプロセスを完了するのをお手伝いします。EzWinFlashはマザーボードを検知し、BIOSのバージョンを確認し、起こりえる失敗からシステムを守ってくれます。さらに、EzWinFlashは皆さんがお使いのどのWindows環境でも機能できるよう考慮されていますので、Windows 95/98、98SE/ME、NT4.0/2000、あるいはWindows XPをお使いでもかまいません。

同時に、一層ユーザーが扱いやすい動作環境を提供するため、AOpenのEzWinFlashはBIOS設定の変更をより容易にできるように多言語機能を持つよう設計されています。



注意： システムをアップデートするときにはBIOSフラッシュの失敗というリスクがあります。もしマザーボードが安定して機能しているのであれば、最新のBIOS更新版で修正しなければならないようなバグはありません。その場合はBIOSのアップグレードをされないようお勧めします。アップグレードを計画されているのであれば、起こりうる失敗を回避するために、手元のマザーボードの正確なBIOS更新版を持っていることをお確かめください。

重要： このBIOSの写真にあるモデル名は参照のためだけのものです。お手持ちのマザーボードと同一のモデルではないかもしれません。



以下のステップに従ってEzWinFlashでBIOSアップグレードの手順を完了できます。アップグレードを開始する前に、全てのアプリケーションを閉じておかれるよう強くお勧めします。

最新版のBIOSパッケージのZIPファイルをAOpen公式ウェブサイトからダウンロードしてください。(例：<http://english.aopen.com.tw/>)

ダウンロードしたBIOSパッケージ(例：WSGMAXII102.ZIP)をWindows環境の中で、WinZip(<http://www.winzip.com>)を使って解凍してください。

解凍されたファイルをフォルダーに保存してください。例：WSGMAXII102.EXE、WSGMAXII102.BIN

WSGMAXII102.EXEをダブルクリックします。するとEzWinFlashはマザーボードのモデル名とBIOSバージョンを検知します。BIOSが違っていれば、フラッシュのステップを続行することはできません。

メインメニューで言語を選択し、次にBIOSアップグレードの手順を開始するために[Start Flash]をクリックします。

EzWinFlashは全てのプロセスを自動的に完了します。ダイアログボックスが表示され、Windowsを再起動するよう求められます。Windowsを再起動するために[YES]をクリックしてください。

BIOS設定画面に入るため、POSTの時点でキーを押します。“Load Setup Defaults”を選択し、次に“Save & Exit Setup”を選択すれば終了です。

フラッシュの過程で電源を切ったり、他のアプリケーションを実行したりしないよう強くお勧めします。



警告：新しいBIOSアップグレードはフラッシュしてしまうと元々のBIOS設定を恒久的に置き換えてしまいます。システムが通常通りに使用する前にBIOS設定を再構成する必要があります。



皆さんはPOST画面が古臭く、変わり映えしないのに辟易されたことはありませんか？それではPOST画面は堅苦しく、温かみがないという従来の考え方をやめてみましょう。明るくてカラフルなPOST画面を体験するため、AOpenが新しく開発したVividBIOSをお見せしましょう！

初期のグラフィックPOST画面とは違い（全画面を占領し、POSTの間はテキストの情報で覆われていた）、AOpenのVividBIOSはグラフィックスとテキストを別々に扱い、POSTの間に同時に実行させます。この革新的な設計により、VividBIOSはPOST画面で重要な情報を漏らすことなく、皆さんを美しく、優美な256色画面へとお連れします。

加えて、BIOS ROMのスペースが限られていることも別の大きな問題です。従来のBIOSは全てスペースを消費し、圧縮できないBitmapを表示するだけですが、AOpenはBIOSを次世代に向けてかなり調整し、より小さなGIFフォーマットや動的GIFアニメーションを認識できるようにしました。



Vivid BIOSはOpen JukeBox CD Playerとも基本的な技術を共有しています。同じEzSkinユーザーリティーを使ってVividBIOS画面を変更したり、お好みのOpen JukeBoxスキンをダウンロードすることもできます。この小さなロゴがマザーボードのダウンロードページ



<http://english.aopen.com.tw/tech/ezskin/vivid.htm>のモデル名の横に表示されていれば、お手持ちのマザーボードがこの革新的な機能をサポートしていることの保証です！

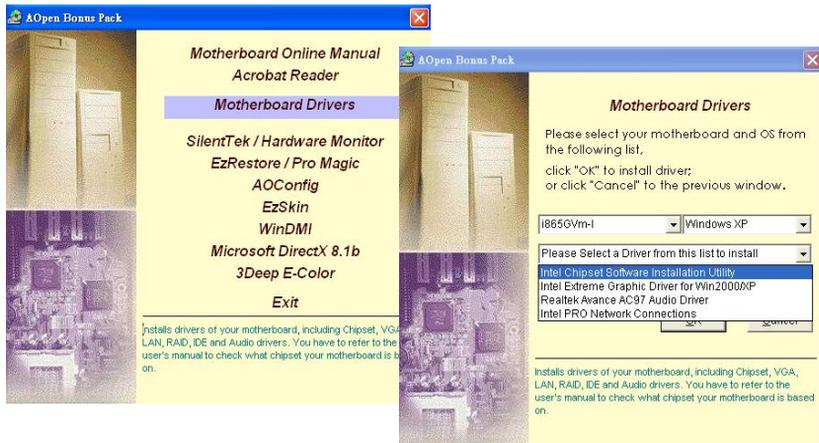


第6章 ドライバーをインストールする

AOpenのボーナスCDに含まれているユーティリティの中にはマザーボードのドライバーがあります。システムをブートするために全てをインストールする必要はありません。しかしハードウェアインストールの後で、ドライバーやユーティリティをインストールする前にOS(例: Windows XP)をインストールする必要があります。ご自分のOSのインストールガイドを参照してください。

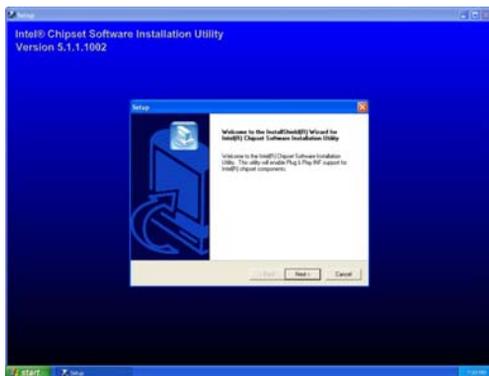
ボーナスCDからのオートランメニュー

ボーナスCDからのオートランメニューをお使いになれます。ユーティリティとドライバーを選択し、モデル名を選んでください。



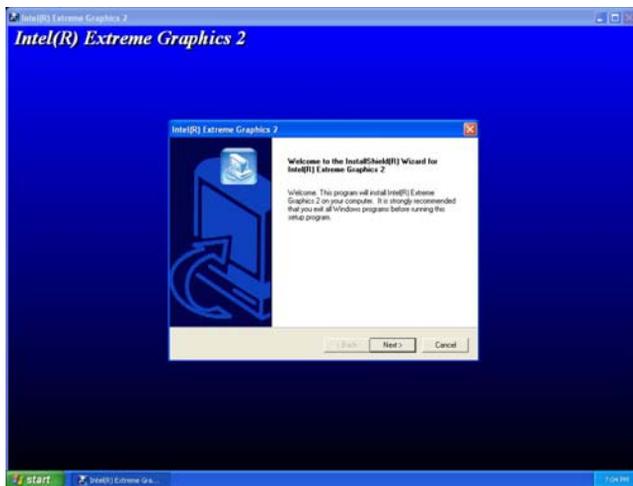
Intel Chipset Software Installationユーティリティをインストールする

Intel Chipset Software Installationユーティリティはチップセットコンポーネントがどのように構成されるかOSに概要を示す、Windows* INFファイルをターゲットのシステムにインストールします。他のドライバーのインストールの前にIntel(R) Chipset Software Installationユーティリティをターゲットシステムにインストールするよう勧められています。



Intel Extreme Graphics 2ドライバーをインストールする

本マザーボードはダイの中に内蔵VGAエンジンを提供するIntel 865G/865GVをベースにしています。最適化された3Dパフォーマンスのために、ボーナスパックCDオートランメニューにあるWIN2000/XP用のドライバーを選択して、Intel(R) Extreme Graphicドライバーのインストールを実行してください。



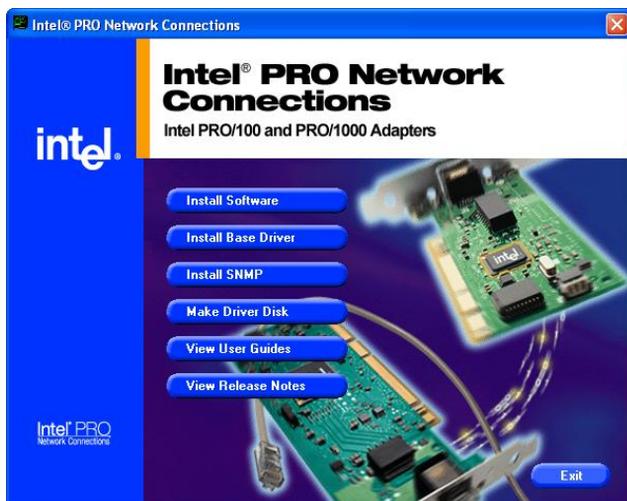
オーディオドライバーをインストールする

本マザーボードにはRealTek ALC650 AC'97 CODECが付いています。ボーナスパックCDオートランメニューからオーディオドライバーを探してください。



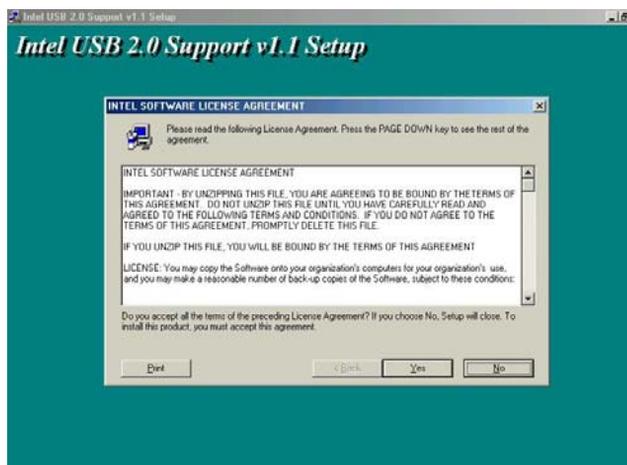
LANドライバーをインストールする

本マザーボードにはボード上にIntel 10/100/1000Mbps (i865Gm-IL用のみ1000Mbps) LANコントローラーが付いています。事務所と家庭用に10/100/1000Mbps Ethernetを提供する高度に統合されたPlatform LAN接続デバイスです。ボーナスパックCDオートランメニューからLANドライバーを探してください。



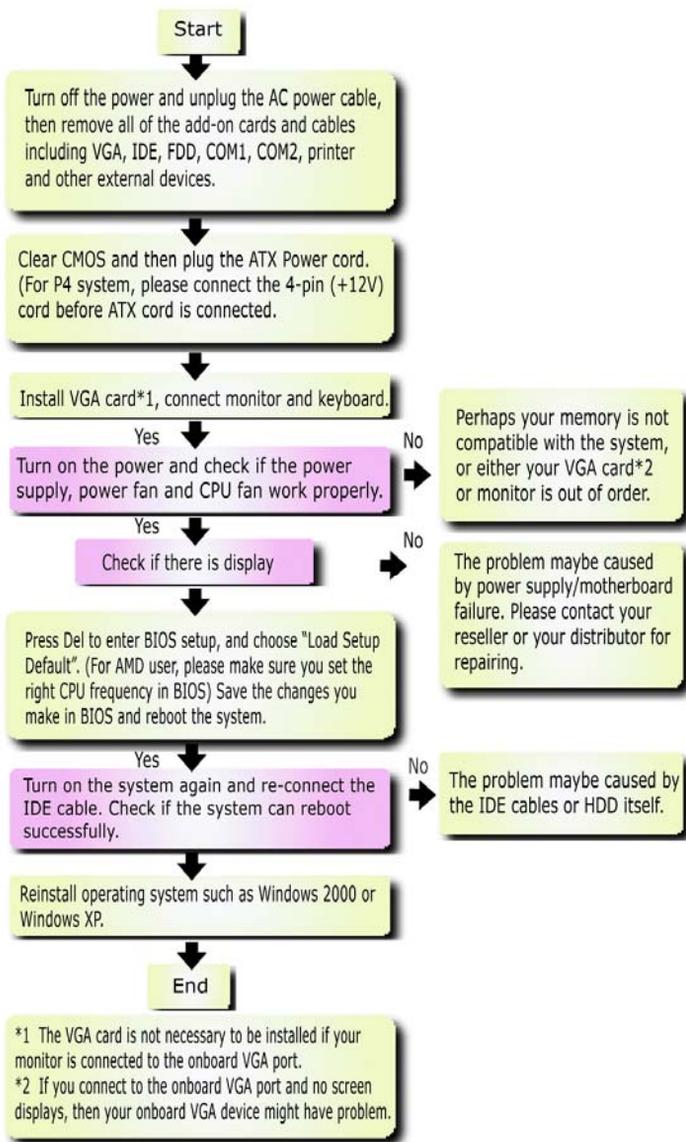
USB 2.0ドライバーをインストールする

本マザーボードにはUSB2.0機能が付いています。Windows 98SE、Windows ME、Windows 2000、Windows XPの元で、ボーナスパックCDオートランメニューからUSB2.0ドライバーをインストールできます。





TroubleShooting



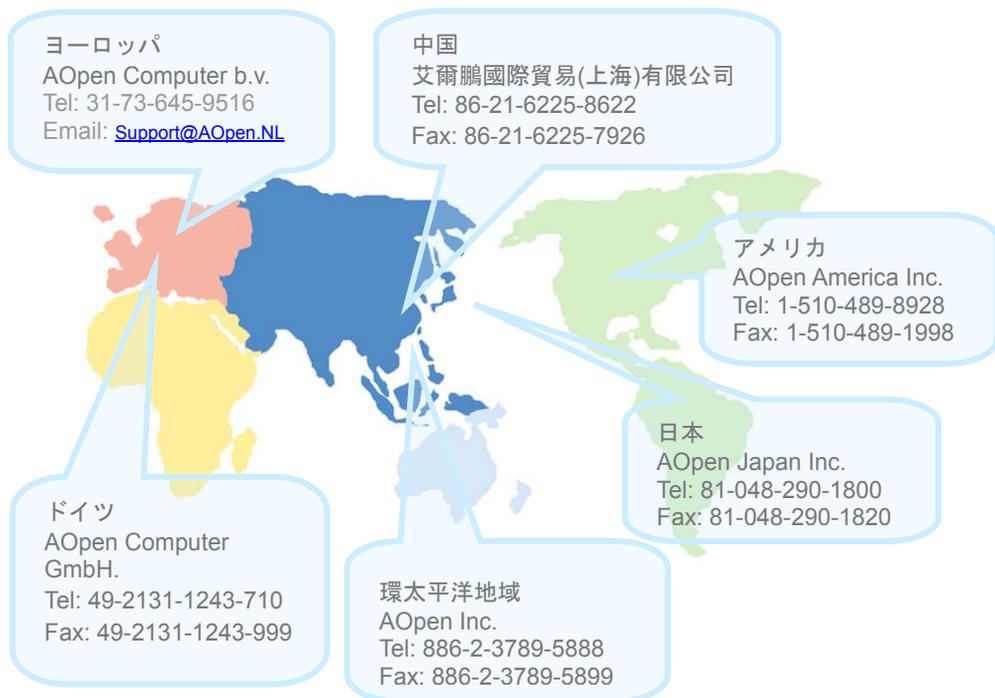
第8章 テクニカルサポート

お客様各位

この度はAOpen製品をお選びくださりありがとうございます。今後の良質なサービスを保証するClub AOpenのゴールド会員になるために<http://www.aopen.com>で登録して下さるようお勧めいたします。お客様各位への最良のサービスを維持できるよう、下記の手順に従い、皆様がお買い求めになった地域に従って、各地の支店からサービスをお受けになるようお願い致します。皆様のご協力によって、全てのお客様への効果的で最良のサービスを提供し続けてまいります。

ご理解に厚く感謝致します。

AOpenテクニカルサポートチーム



ヨーロッパ : Support@AOpen.NL
環太平洋地域 : <http://www.aopen.com.tw/tech/default.htm>
中国 : <http://www.aopen.com.cn/tech/default.htm>
ドイツ : <http://www.aopencom.de/tech/default.htm>
アメリカ : <http://usa.aopen.com/tech/default.htm>
日本 : <http://www.aopen.co.jp/tech/default.htm>

モデル名とBIOSバージョン

モデル名とBIOSバージョンはブートの最初の画面(POST画面)の上部左に現れます。例えば：



i865Gm-IEはマザーボードのモデル名で、R1.02はBIOSバージョンです。

マザーボードを登録する

AOpen製品をお選び下さりありがとうございます。Club AOpenのゴールド会員になるために、本マザーボードを<http://club.aopen.com.tw/productreg/>にてご登録ください。AOpenが高品質のサービスと優先度を保証するものです。スロットマシンゲームに参加して、AOpenから賞を獲得するチャンスもあります。始める前に以下の情報を準備してください：モデル名、部品番号 (P/N)、シリアル番号 (S/N)、購入日付です。部品番号とシリアル番号はバーコードラベルに印刷されています。このバーコードラベルはパッキングの外部かPCBのコンポーネント側にあります。例えば：



P/N: 91.88110.201は部品番号、S/N: 91949378KN73はシリアル番号です。

Phoenix-Award BIOS エラーメッセージ

ビープ音	メッセージ
1 回短く (ビープ)	システムブートが正常
1 回長く - 1 回短く(ビープ)	DRAM エラー
1 回長く - 2 回短く(ビープ)	ディスプレイカードあるいはモニターの接続エラー
1 回長く - 3 回短く(ビープ)	キーボードエラー
長い(ビープ)が継続	DRAMが正しく装着されていない



Technical Support

Online Manual: To download manual, please log on and then select your preferred language. Under "Type" directory, choose "Manuals" to go to our manual database. You can also find the manual and EIG in AOpen Bonus Pack.
<http://download.aopen.com.tw/downloads>

Test Report: We recommend you to choose board/card/device from the compatibility test reports for assembling your PC. It may prevent incompatibility problems.
<http://english.aopen.com.tw/tech/report/default.htm>

FAQ: Here we list problems that users often encounter and FAQ (Frequently Asked Questions). You may select your preferred language after log on, and may be able to find a solution to your problem.
<http://club.aopen.com.tw/faq/>

Download Software: After log on and having language selected, you may get the latest updated BIOS/utility and drivers you need under "Type" directory. In most case, newer versions of drivers and BIOS have solved earlier bugs or compatibility problems.
<http://download.aopen.com.tw/downloads>

eForum: AOpen eForum is provided to discuss our products with other users, in which your problem probably had been discussed before or will be answered. After log on, you may select your preferred language under "Multi-language".
<http://club.aopen.com.tw/forum>

Contact Us: Please prepare detail system configuration and error symptom before contacting us. The part number, serial number and BIOS version are also very helpful.

Contact Distributors/Resellers: We sell our products through resellers and integrators. They should know your system configuration very well and should be able to solve your problem efficiently and provide important reference for you.

